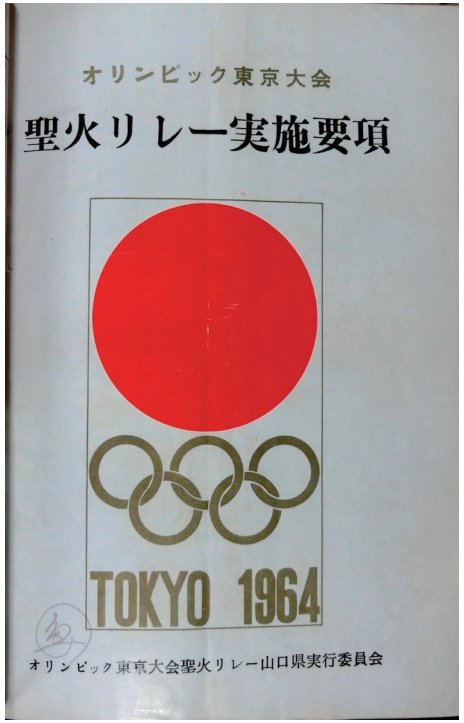
6-1-6　日本の高度経済成長

東京オリンピック聖火リレー



県内聖火リレー

1.　コースと日程および参加者数

市町村名	区間数	参加者数	引継時刻
下関市	16	368 18日	10.00
山陽町	6	138	12.21
小野田市	6	138	13.20
宇部市	15	245	14.15
阿知須町	3	69	16.25
小郡町	4	92	17.30
山口市	19	437	16.47
			18.08
防府市	12	276 19日	9.23
徳山市	10	230	10.59
			12.16
南陽町	5	115	11.38
下松市	5	115	13.08
光市	10	230	13.45
田布施町	4	92	15.21
平生町	3	69	15.57
柳井市	5	115	16.21
大島村	4	92 20日	8.23
由宇町	5	115	9.03
岩国市	14	222	9.52
和木村	1	23	11.47
計	147	3,381	

各市町村のコース，日程，正走者，副走者は別掲。

＊行政文書戦後A県教委1339「聖火リレー関係」

解　説

写真はオリンピック東京大会聖火リレー山口県実行委員会が作成した「聖火リレー実施要項」です。

1964（昭和39）年8月23日にアテネを発った聖火は，イスタンブール，ベイルート，テヘラン，ラホール，ニューデリー，カルカッタ，ラングーン（現ヤンゴン），バンコク，クアラルンプール，マニラ，ホンコン，台北の各都市を経て，9 月6 日に那覇に到着しました。沖縄島内を巡った後，9月9日に鹿児島に到り，その後は4つのコースに分かれ全国でリレーされました。

実施要項によると，リレー隊は1区間ごとに正走者1名，副走者2名，随走者20名以内で構成され，1～2㎞の距離を，胸にマークの入ったランニングシャツ（女子は半袖シャツ），白パンツ，白運動靴という規定の服装で走りました。山口県では，9月18日から20日にかけて，147区間，3,381人が参加しました。

こうして全国でリレーされた聖火は，東京で合流し，10月10日の開会式で最終ランナー・坂井義則の手により聖火台に点火されました。

＊写真上は東京オリンピックの前年，山口県で行われた国体の炬火リレーの実施要項とリレー風景です。山口国体は「東京オリンピックにつながる国体」と呼ばれ，東京オリンピックでメダリストとなる選手が数多く参加しました。県内各地を巡った国体旗と炬火は国体開催ムードを一気に高めました（60各団-89「第18回国民体育大会炬火リレー」・グラフ山口-山口国体63「炬火リレー（写真）」）。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育編
目次に戻る